



市長と

車座トーク

第55回 多治米学区（概要）



開催日時 2018年（平成30年）2月9日（金）

19:30～20:40

開催場所 多治米公民館

参加者数 12人

次第 市長のあいさつ

意見交換

地域からまとめのあいさつ



＜車座トークでの主なご意見＞

- ・ 沖野上箕島線の道路が計画されて、50年以上が経過している。市政懇談会でも要望しているが、他に優先順位が高い所があるということで受け付けてもらえない。未完成の570mの早期着手をお願いしたい。
- ・ 地域の活力を高めるため、まちづくり計画に沿ってふれあい広場や盆踊り大会、とんど、各種スポーツ大会等で多くの住民の参加を呼びかけている。しかし、町内会の加入について、特にごみステーションが設置してある集合住宅の加入が進まない。成功事例を教えてください。
- ・ 学区老人会では明るいまちづくりに協力しているが、加入率は約11%。加入率が低い原因は、①声かけが不十分、②「地域に関わりたくない」「役員になりたくない」「高齢者ではない」、③老人大学でも学習出来、満足している、④各市民大学で勉強出来る、等がある。老人大学設立当時は、地域の老人クラブへ入会しないと入学出来ないと聞いた。市から老人大学の学生に、「老人クラブに入って地域と一緒にやって欲しい」という声かけや指導をしていただきたい。

- ・子ども会では、役員が面倒とか、習い事をしているといった理由で、加入率が約50%となっている。出来るだけ任意で加入していただきたいと思っている。他学区の成功事例を教えて欲しい。
- ・町内会費の徴収や敬老会の記念品を渡すために訪問すると、該当者がいない時がある。聞こうとしても「プライバシー」の問題があり教えてもらえない。何でもかんでも「プライバシー」を持ち出す人が一部いるが、これがどこまで許されるのか聞きたい。
- ・ごみステーションについて、以前は「町内会未加入者は利用出来ない」という取決めがあったが、未加入者も使用出来るようにした。しかし町内会費を払っている人と払っていない人を同じように扱うことはどうかと思う。
- ・体育会の行事として、三世代で行う事業を増やしている。小学校のグラウンドや体育館を使っているので、お礼の気持ちを込めて毎年体育館を清掃している。学区行事だけではなく、近隣学区との合同大会や市の大会にも出場しており、ふくやまマラソンでは運営スタッフとしても協力する。学区独自の取組として、陸上、水泳、ソフトバレーボールの教室を実施している。特に陸上では、陸上競技経験者の協力を得て、大会で入賞もしている。この活動が出来るのも人材がいたからだと思う。今後のために、後継者や役員等人材発掘の取組が進んでいる学区の事例があれば教えて欲しい。
- ・子ども110番の家の取組として、不審者を撲滅し、犯罪の少ない「安心・安全な福山市」とするためにも、看板の設置だけでなくカラーボールと電動ホイッスルも一緒に渡して欲しい。また、その使い方を学校・子ども・町内会と市広報でアピールして欲しい。全国的にも発信出来ることだと思う。
- ・避難場所について、遠くへ行くのは不安だと思っている住民のためにも、近く of 企業や病院へ「避難場所」として施設を貸して欲しいというお願いをしている。市の一斉防災訓練にも企業や施設の職員も含めた訓練をしてもらうため、市からも声をかけていただきたい。また、市の持っている備蓄品を小学校に一部移すようにしてもらえると役立つ。備蓄品が学校に揃っていればみんな安心して避難行動がとれる。是非進めて欲しい。
- ・周辺の小学校の再編が検討されているが、今後は市の中心部にも移ってくるのではないかと。テレビ番組で「30年後は小学校の数が1/2以下になる」と言っていた。人口減少ということは少子化が進むということ。小学校の教室が空くということは、小学校自体が無くなる前段だと思う。小学校の耐震化が済んでいるので、それを無くするのはもったいない。空き教室を公民館等公共施設に有効利用してはどうか。
- ・小学校では「タジフレンズ☆挑戦～チェンジ・チャレンジ・チームワーク～」をスローガンとして取り組んでいる。1つ目は「あいさつ」の取組。朝校門や朝会前にあいさつ運動をしている。あいさつは魔法の言葉。「目を見て」「元気よく」「さわやかに」を合い言葉に地域や保護者・中学生の協力を得ながらがんばっており、「あいさつ名人認定証」をもらう児童も増えて、レベルアップしている。2つ目は月目標や行事の目標を明確にして、全員で取り組んでいる。振り返りを大事にして、自分や友達の頑張りをを見つけたり、もっと良くしたらいい所を伝え合ったりしながら自分達を高めている。この取組が認められ、児童会役員と6年生は市の善行児童・生徒に選ばれた。卒業式まで「史上最高の多治米小学校」になるよう取組を続ける。今月の月目標は「スリッパぱっちり作戦」。トイレをきれいに使うために保健委員会と協力して履物を揃えて、掃除をがんばっている。しかし掃除をしても臭いが出たり鍵が壊れたりとボロボロ。学校のトイレを使いたくない児童もいる。トイレの改修をお願いしたい。

<市長のまとめ>

- ・沖野上箕島線のあるエリアは東西や南北の交通量が多く、技術的にはなかなか難しい。道路整備のやり方について、個別に一つひとつやり取りをするのではなく、計画的に市民にわかりやすい形を示すことで納得していただけるようなやり方に変える。まずは維持・修繕をどのようにしていくかという計画を立て、それを示すことをやっていきたい。新しく道路を作ることについても同様に整備計画を作って、優先度や考え方を市民へわかりやすく説明し、意見も聞いていきたい。もし整備を早く進めたいということであれば、計画の形を少し変えるなど相談しながら整理していく。
- ・自治会への加入については、これまでのような地域の組織がこれからもそのまま存続していいのかどうかという所まで立ち返って、地域のあり方を議論したい。今年4月以降、全国の地域組織・自治会組織の成功事例を研究したり、有識者に来てもらって、どうやれば地域が存続出来るのか、地域の活力が維持出来るのか勉強したりしたいと思っている。成果は各学区へお知らせしたい。集合住宅・共同住宅の町内会加入については、宅地建物取引業協会と連携し、住宅の売主と地域との間へ協会に入ってもらおう。自治会の会長さんや役員さんが協会に、町内会に入るよう売主に言って欲しい、という取組。マンションが1棟全部加入したという学区もある。参考にして欲しい。また2月17日には市自治会連合会が、自治会（町内会）活動のモデル事例集の作成に取り組むという話を聞いているので、また自治会連合会から話があると思う。
- ・老人大学の入学資格に、地域の老人クラブへの加入は設定していない。老人クラブに入っていない人も受け入れることは大学のあり方としては良いのではないかと思う。課題である老人クラブの加入率低下への対策としては、1つは魅力ある取組をすること。老人大学学長と相談して、希望する老人クラブへ出前講座をやってもらうことを考えてみたい。もう1つは高齢者だけで活動をするのではなく、三世代で一緒になって取組をするということ。これは町内会の加入促進にもつながると思う。
- ・子ども会の加入促進についての成功事例については、川口学区において、小学校の入学説明会や入学式で子ども会への加入を呼びかけている事例がある。また、高齢者と一緒に子ども会活動をするということも有効だと思う。全国の事例を集めていくので、また皆さんにお知らせしたい。
- ・地域の維持の仕方について、町内会でも人と人との交わり方が難しく感じることもある。緩やかな人間関係を築くことを基本に町内の地域づくりを少しずつしていただきたい。また地域で何か気持ちが1つになるような小さな取組をしていただければいいと思う。例えば「あいさつ」を交わしていくこと。そういう所からスタートしていくと、少しずつ気持ちを開いてくれるのではないか。また、「結びつき」「絆」が作れない場合に不安なことが「災害」。災害情報を共有することが地域形成の重要な役割だということが相手に届けば、参加しようという気になるかもしれない。
- ・敬老会の記念品を渡したいが該当者がどこにいるのかわからない場合は、行政に問い合わせただければ、相談に応じられる範囲で応じる。また見守り活動をしている民生委員に託すということもある。町内会長が1人で仕事を抱えて悩むのではなく、役員さん達と話をしながら悩みを共有する場を作れば、役割分担が出来るのではないかと思う。色々な役員と悩みを共有する場を作ると「それは私がやる」ということが出来ると思う。
- ・体育会の盛んな活動報告をいただいてありがたい。人材不足、後継者不足は他でも課題となっている。多治米学区は役員交代がスムーズに出来ているようで、うらやましいことだと思う。それだけ難しいこと。学区毎に特殊性があるので、どこでも当てはまるとは限らない。人材育成や後継者へのバトン

タッチについては、これからの勉強のテーマにしていきたい。

- ・「子ども110番の家」の看板は市内5,700軒以上に設置している。2016年度には不審者から声をかけられたという事例は1件。効果が出つつある。不審者への対応についてだが、この不審者がどういう人物かわからないため、カラーボールを投げることでどういう反応を示すのか見当がつかない。だから出来るだけ、子どもを安全に確保した後は門やドアを閉め、すぐ110番をしていただくことを基本にして欲しい。電動ホイッスルについては有効かもしれないので考えさせて欲しい。
- ・昨年11月の市の一斉防災訓練では19,000人の参加があった。一昨年より増えており、それだけ市民の防災意識が高いということ。今年も11月の第4日曜日に実施する。遠くの避難所より近くの一時避難所を出来るだけ確保したいということはその通り。企業や病院の参加については、防災訓練が日曜日であるため、施設の3・4階へ避難場所を出来るだけ確保するという依頼を担当課と一緒に取り組みたい。小学校へ備蓄品の保管場所を確保することについては、既に4学区でされている。学区と学校で協議をし「目的外使用」という相談をして欲しい。校長の了解が得られ、場所があれば使用出来ると思う。備品については自主防災組織で購入していただくことになるが、市の補助もある。市の備蓄品は市が、学区の備蓄品は現状学区で対応してもらっている。
- ・いくつかのやり方を同時に考えたい。1つは今までたくさん作ってきた公共施設を集約しながら、公民館機能を中心とする施設に建て替え、「交流館」という施設にしていく取組。これから計画的にやる。今までのようなやり方ではなく、老朽化など優先順位が高い施設をグループにまとめて、近いうちに公表する。交流館を新しく建てるに財政負担がかかるため、今ある施設を利活用し、機能を集約する等スピード感を持って施設が生まれ変わるという選択肢も作ってみたい。提案のあった学校の空き教室の利用については、現在放課後児童クラブとしては認めているが、公民館としての活用までは踏み込んでいない。放課後児童クラブは2019年までに、6年生まで受け入れるため施設がいくらあっても足りない。それを優先的にしたうえで更に空き教室があれば、今の提案が可能になるかもしれない。今は優先順位で合理的に費用をかけずに有効利用出来る考えを持ちたい。
- ・学校のトイレについては校長と相談し、教育長にも伝える。「あいさつ名人」の取組は本当に大切だと思う。先ほどもなかなか人と人との触れ合いが作れないという話があり、「小さなことから始めよう」ということであいさつ運動のことを言ったが、皆さん方がそういう形で取り組んでいることは、地域の大人たちの心も柔らかくしてくれると思う。是非頑張って「史上最高の多治米小学校」を更に立派なものにして欲しい。

<地域からのあいさつ>

市長をはじめ局長・部長・所長には、色々とお話いただき、お世話いただきありがとうございます。多治米学区は充実した地域活動や地域生活を支えるライフスタイルとして、考えてこれを求めています。その中で原動力となるのは、まちづくり推進委員会26団体の中で、代表者が本日出席させていただき、それぞれの身近な課題等話をさせていただきました。建設的な回答をいただき、また、今後とも検討していただけるとのことで、ありがとうございます。今後とも学区の発展に一層のご指導を賜りますようお願いし、お礼のごあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。